

## 第1学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)  
授業者 〇 〇 〇 〇

### 1 主題名

生きることのすばらしさを感じて 「D-(22) よりよく生きる喜び」

### 2 ねらいと教材

#### (1) ねらい

困難を乗り越え、絵をかき続ける主人公の生き方に共感させることを通して、人間としての強さや誇りを持ってよりよく生きようとする道徳的心情を育てたい。

#### (2) 資料名

「花に寄せて」(東京書籍 新しい道徳1)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

人間は誰にでも、心の中に弱さや醜さがある。自分に自信が持てなかつたり、劣等感に悩んだり誰かを妬んだり、恨んだりすることがある。しかしながら、同時に、その弱さや醜さを克服したいと願う心を持っている。こうした苦しみに打ち勝って、自分に誇りを持つことができたとき、人間として生きる喜びに気付くことができる。そして、人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また、気高い存在になり得る。

指導に当たっては、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近づけるということに目を向けられるようにする必要がある。さらに、人間が持つ強さや気高さについて十分に理解できるようにすることが大切である。本時では、人間が持つ弱さを強さに変え、誇りを持ってよりよく生きる喜びを見出すという道徳的価値に焦点を当てて指導していきたい。

#### (2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は、学校生活の様々な活動に取り組むことを通して、協力し合い、温かい人間関係を築くことができるようになってきた。係活動や委員会活動など、与えられた仕事に対して責任を持って取り組むことができる。その反面、困難なことに直面したときに、「どうせできない」「やっても無駄だ」などとすぐに諦め、弱い自分に負けてしまう姿が見られることが課題である。これまで、道徳の学習では、生命を大切に、輝いて生きようとするということについて考えたり、「銀色のシャープペンシル」という教材を通して、人間には弱さや醜さを乗り越えていく強さがあることについて、自分との関わりで考えたりしてきた。そこで、本時では、困難を乗り越え、絵をかき続ける主人公の生き方に共感させることを通して、人間としての強さや誇りを持ってよりよく生きようとする道徳的心情を育てたい。

#### (3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、肩から下の全ての自由を失い、口に筆をくわえて絵をかき続けた星野富弘さんに関する実話である。展覧会に訪れた人々から寄せられる感動の声に、「何か新しいものが、息づき始めたような気がした」と、障害という困難を乗り越えて、生きる喜びを見出していく様子が描かれている。授業の前半では、絶望のふちにいた時期や、展覧会を開こうとした主人公の心情を共感的に捉えさせ、後半につなげていきたい。中心発問では、主人公が、自分の人生を振り返り、どのように考えているかを問うことで、よりよく生きる喜びという道徳的価値について、多面的・多角的に考えさせたい。

また、生徒に、教材の内容をより分かりやすく捉えさせるために、事前読みをさせておく。

#### 4 学習指導過程

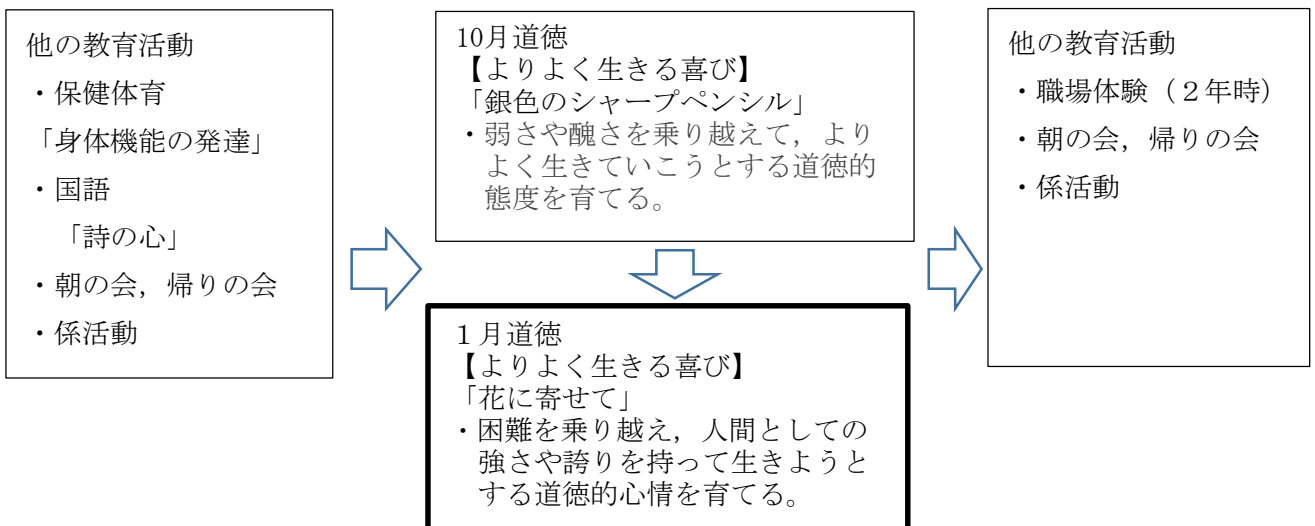
	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)・予想される反応	・指導上の留意点
導入 5分	<p>1 教材の内容に興味や関心を持つ。</p> <p>○ (星野さんの詩を提示し) この詩はどのような人がかいた詩でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首から下が動かない人がかきました。</li> <li>・星野富弘さんという人がかきました。</li> </ul> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「生きる喜び」について考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の詩 (135ページ) や写真を提示することを通して、教材の内容に興味や関心を持たせる。</li> <li>・「人間の持つ強さ」について考えるきっかけをつくるために、星野さんのエピソードを紹介する。</li> <li>・ICT機器を使用し、資料を見やすくする</li> </ul>
展 開 35分	<p>3 範読を聞き、主人公の心情を捉える。</p> <p>○ 星野さんは、どのような気持ちで病院の天井だけを見詰めていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう何もやりたくないという気持ちです。</li> <li>・生きていく自信がないという気持ちです。</li> </ul> <p>○ 展覧会の日の朝、星野さんはどのような気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着かない気持ちです。</li> <li>・不安な気持ちです。</li> </ul> <p>4 道徳的価値について、多面的・多角的に考える。</p> <p>○ 星野さんの作品を見た人々が、涙を流して感動するのはなぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害を持っているのに、生き生きとした絵を描いているからだと思います。</li> <li>・作品を見た人が、自分も頑張ろうという気持ちになったからだと思います。</li> <li>・有名な画家がかいた作品とは違ったよさがあるからです。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎ 星野さんは、自分の人生を振り返り、どのように考えていると思いますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・死んでしまいたいと思ったこともあったけど、自分の絵に人々が感動してくれて、生きていて良かったと思っています。</li> <li>・これまで、いろいろな人に支えられて生きて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・範読の時間を短縮させるために、「語りかけ帳」の部分は省略する (事前読みで触れている)。</li> <li>・場面を想起させるために、場面絵を提示する。</li> <li>・道徳的価値についての考えを深める場面につなげるために、人間の弱さを感じる場面や、強さに変えることができた場面の、主人公の心情を捉えさせる。</li> <li>・展覧会を開くことで、弱い自分から一歩踏み出そうとしている主人公の姿に気付かせるために、問い返しをする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ不安だったのですか。</li> <li>・不安だったら展覧会を開くことを諦める選択もあったのに、どうして開こうと思ったのですか。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々に感動を与える理由を問うことで、弱い心に負けず、生命に満ちあふれている主人公の姿が絵に表れていることに気付かせる。</li> <li>・生きる喜びについて多面的・多角的に考えさせるために、生徒の反応に問い返しをしたり、理由を聞いたりする。</li> <li>・主人公が誇りある生き方をしていることに気付かせるために、問い返しをする。</li> </ul>

	<p>きたから、その恩返しのようなものができてよい人生だったなと考えていると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の先生としてやっていけば、それはそれで充実した人生だったと思うけど、このような体になったからこそ、気付いたことがあって、生きる喜びを感じていると思っています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆を口にくわえて字や絵をかいた星野さんの生きる喜びと、もしけがをせず体育教師として生きた喜びとでは、同じだと思いますか。違うと思いますか。</li> <li>・自分との関わりで道徳的価値を深めさせるために問い返しをする。</li> <li>・人はどのような時に、生きる喜びを感じたり、生きていてよかったな、と感じたりするのでしょうか。</li> </ul>
<p>終末10分</p>	<p><b>5 自己の生き方について考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「生きる喜び」について考えたこと、これからの生活で生かしていきたいと思うことを、今日の授業で学んだことを含めて書きましょう。</li> <li>・困難なことに出会っても、人にはそれを乗り越えられる力があるし、その先には、その人にしか味わうことができない生きる喜びが待っているのだと思いました。</li> <li>・自分のやりたいことが見つかったり、周りの人の役に立ったと実感できたりしたとき、生きる喜びを感じるのだと思います。これから辛いことがあっても、生きる喜びを見つけて生きていきたいです。</li> </ul> <p><b>6 教師の説話を聞く。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「辛いという字がある もう少しで幸せになれそうな気がする」という詩があります。どうしてこの詩をかいたのでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値についての自分の考えを整理し、自己の生き方についての考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。</li> <li>・道徳的価値に関連する、主人公のもう一つの詩を紹介することで、生徒の心に余韻を残す。</li> </ul>

**【評価】**

よりよく生きる喜びについて、自我関与中心の学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

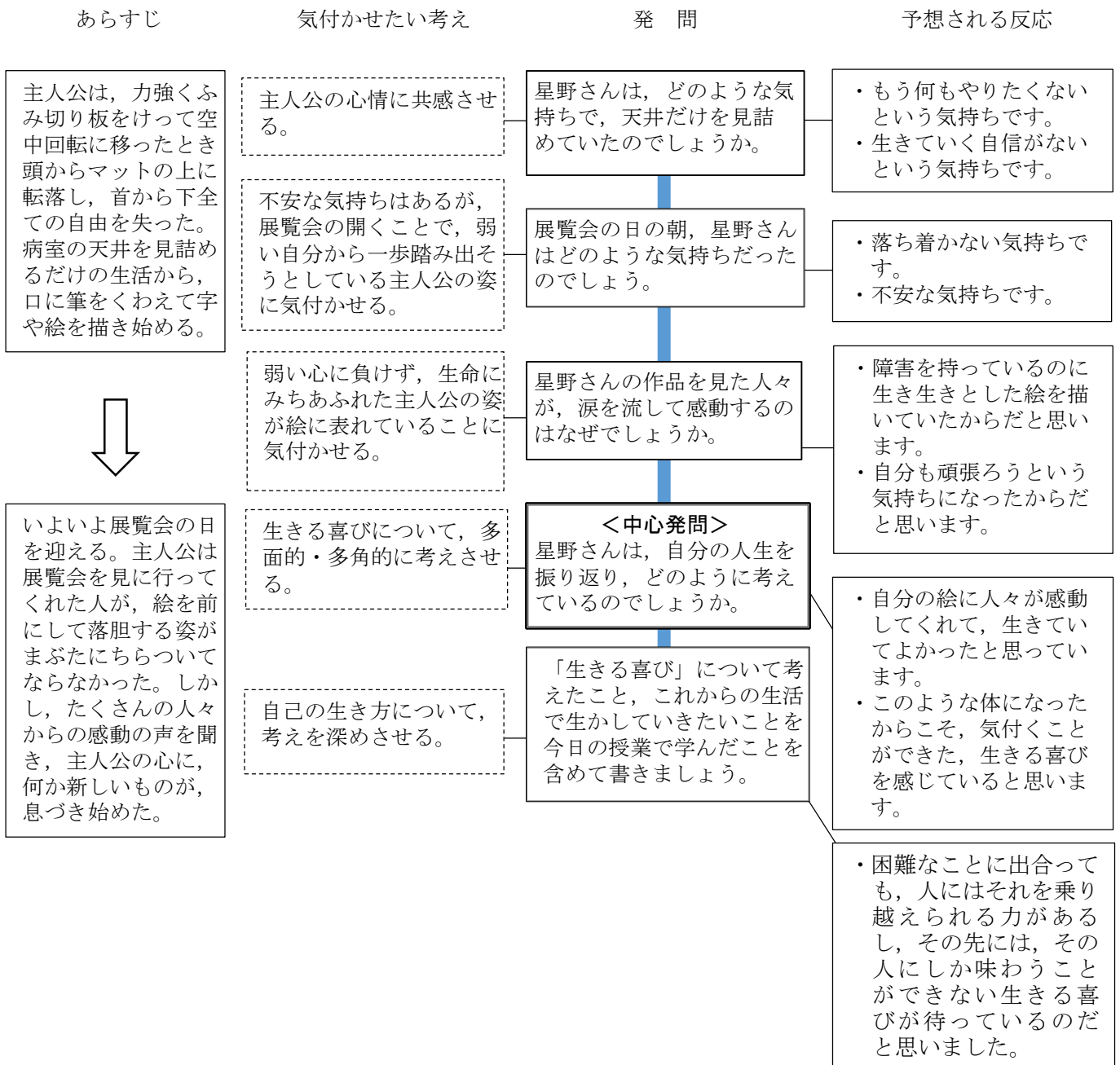
**5 他の教育活動との関連**



## 6 補充・深化・統合の視点【深化】

生徒にとって、困難なことに合う場面は、多く存在する。集団生活でうまくいかなかったり、けがをして思うように動けなくなったり、進路について悩む時などである。本時では、これまでの関連する教育活動を踏まえ、今後出会うであろう様々な場面において、自分の弱い心や困難を乗り越え、人間としての強さや誇りを持ってよりよく生きることについて、考えを深めさせる(深化)。

## 7 教材分析・発問構成



## 8 準備物

教師：教科書、場面絵、星野さんの資料

生徒：教科書、ノート

## 9 実践の記録 (○成果, ●課題)

### 【板書】

①②人間の弱さを感じ取らせた場面

③弱さを強さに変えた主人公の気持ちを感じ取らせた場面

「生きる喜び」について、  
多面的・多角的に考えさせた。

名 道德  
先に寄せて 星野富弘  
「生きる喜び」について考えよう  
落ち着かない (不)  
本を消してしまいたい ②  
たけど ③  
「良かったよ」「素晴らしい」「涙が出た」  
動けないのに一生懸命  
自分だけではなく他の人にも共通の言葉(詩)  
自信や勇気に感動

「生きる喜び」について、  
多面的・多角的に考えさせた。

体操をしている時に  
同じくらい生きる喜びを  
感じている  
首から下が重かなくなった  
からこそできたことがある。  
後悔はない。周りの人に  
勇気を与えることができた。  
夢中  
他の人にほめられた時

動けはいいな  
これからの人生 何をしていけば  
体操したいなあ ①

### (1) 導入

#### 教材に興味や関心を持たせた

事前読みをさせたので、教材の内容はほぼ理解できていると思われたが、主人公がけがをする前の職業や、献身的に闘病生活を支えた母について、スライドを活用しながら紹介した。また、生徒が普段「楽しい」と感じていることは何かを聞き、主人公にも体操という生きがいがあったことに触れた。それが一瞬にして絶たれてしまった悲しみを想像させ、課題である「生きる喜び」につなげた。

○ 写真 (大型テレビ) を活用したので、生徒にとって分かりやすかったと思われる。

● 課題につなげていく問いに工夫が必要だった。

### (2) 展開

#### 生徒の考えを深めさせるために、問い返しをした

展覧会を開くことで、弱い自分から一歩踏み出そうとしている主人公の姿に気付かせるために、「展覧会の日の朝、星野さんはどのような気持ちだったのでしょうか」という発問の反応に対する問い返しをした。反応例は、以下のとおりである。

- ・ (展覧会を) 見る人に勇気を与えたいと思ったからです。
- ・ 自分の気持ちを他の人達に伝えたいと思ったからです。

また、中心発問の生徒の反応「障害を負ってしまったけど、人々に勇気を与えることができたから、後悔はない」「障害を負ったからこそ生きる喜びを見つけることができた」に対し、道徳的価値を自分のこととして捉えさせるために、「みなさんはどのような時に生きる喜びを感じたり、生きていてよかったなと感じたりしますか」と問い返した。反応例は以下のとおりである。

- ・ 何かに夢中になっている時です。
- ・ 誰かに褒められた時です。

- 問い返しを準備することにより、主人公の言動の背景にある道徳的価値の大切さを引き出すことができた。
- 準備していた問い返しに関する内容を、生徒が気付いて自ら発言した。それに対して一人一人が考えを持つ時間を確保せず、全体で共有することができなかった。多様な反応を予想し、更に生徒の考えを深める手立てが必要であると感じた。

### (3) 終末

#### 自己の生き方について考えを深めさせるために書く活動を取り入れた

「生きる喜び」という課題について、自分の考えを書かせた。以下に、生徒の考えを紹介する。

##### 生徒の感想

- ・体が不自由ではない私は、もっとできることがあるはずだと思いました。どんなに辛いときでも、きっとできると思いながら、一生懸命そのことに取り組んでいきたいと思いました。
- ・星野さんがかいた詩の最後に「強い茎になろう」という前向きな気持ちを持てるように、これからの生活に生かしていきたいです。
- ・星野さんは周りの人を笑顔にしたり、勇気を与えたりしているので、「あきらめないこと」が大切だなと思いました。今の自分では出来ないような事でも、それを続けていったら、だんだん出来るようになってくるという事を信じて、行動していこうと思いました。
- ・生きる喜びを感じる瞬間は、自分が積極的に動いて、感謝された時、好きになったことを全力で出来る時です。今全力でしていることは、生きている限り諦めずに、その他にも新しいことに挑戦して、自分だけではなくて、他人のためにもなるようなことができたらいいいと思いました。